

令和8年7月17日
北九州市 都市ブランド創造局

報道機関各位

国登録文化財（建造物）の答申について

国の文化審議会（会長 ^ひ比野 ^の克彦^{かつひこ}）が、令和8年7月17日（金）に開催され、同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、新たに163件の建造物を登録有形文化財に登録するよう文部科学大臣に答申する予定です。

本市からは、若松区所在の「石炭会館」1件が登録される予定で、これにより市内の国登録文化財建造物は34件（1件増）となります。

【新規に国登録（建造物）となる予定の有形文化財（1件）】

^{せきたんかいかん}
石炭会館 1 棟

都市ブランド創造局文化企画課
担当：石松（課長）、塚本（係長）
TEL：093-582-2391

【登録文化財（建造物）】

- (1) 名称・員数 石炭会館 1 棟
- (2) 所在地 福岡県北九州市若松区本町一丁目 985-5
- (3) 構造・形式 木造二階建、瓦葺、建築面積 201 m²
- (4) 年 代 明治 38（1905）年
- (5) 登録基準 国土の歴史的景観に寄与しているもの
- (6) 特徴・評価 北九州市若松区^{どうかいわん}の洞海湾の北岸に位置する。若松は江戸時代から筑豊炭田で産出された石炭の積出港として繁栄し、明治時代には港湾と鉄道の整備によって陸上・海上輸送の拠点となり、全国屈指の石炭積出港として発展した。

石炭会館は、明治 38 年（1905）に若松石炭商同業組合事務所として建設され、その後、昭和 19 年（1944）に社団法人若松石炭協会となり、昭和 48 年（1973）からは株式会社石炭会館の事務所兼テナントビルとして使用されている。建築は、木造二階建、寄棟造^{よせむねづくり}瓦葺^{さんぐわらぶき}。矩形平面の正面中央にドリス式オーダー風柱を用いた玄関ポーチを付す。一階外壁に石造風の^{めじ}目地を切り、一、二階とも縦長窓を整然と並べる。石炭産業による往事の繁栄を今に伝える。若松に現存する最古の洋風建築であり、若松の歴史的景観に寄与する建造物として評価された。

(7) 位置図



(8) 文化財写真 (データ提供可)



石炭会館 全景



1階エントランスと階段



玄関ホール天井飾



2階バルコニー廻り